

理窓教育会報

第 49 号

平成 29 年 4 月 1 日

東京理科大学理窓教育会

事務局 PORTA 神楽坂 7 階

巻頭言 『 国際学力調査の結果発表と肥沼信次（リーツェンの桜）について 』

理窓教育会会長 富岡 康夫(48 理化)

2015年に行われた「国際数学・理科教育動向調査」(TIMSS)結果が平成28年の11月29日に、同「国際学習到達度調査」(PISA)結果が12月6日に公表されました。前者は小学校4年生と中学校2年生の理科と算数・数学の国際学力調査です。

中学2年生の理科がシガポールに続く世界2位になるなど大きく成績が向上しました。現行の学習指導要領の成果に加え、観察実験を手助けするために、大学生を小学校へ派遣するなどの教育現場の創意工夫が押し上げたといわれています。一方、児童生徒アンケートでは算数・数学が「楽しい」と答えた生徒は小4が75%、中2が52%で国際比較の小4の85%、中2の71%、理科も中2が66%で15ポイントも国際平均を下回りました。「学ぶ意欲平均以下」といわれ課題を残しています。

後者はOECDが実施している72か国の15歳の国際学力調査です。我が国は「科学的応用力」では2位(前回12年は4位)、「数学的応用力」では5位(同7位)理数系は向上と好成績を収めました。しかし、「読解力」は8位(同4位)で下がり、これからの課題として文章を読む力の育成や語彙力の強化などの対策がとられると予想されます。文部科学省は「スマートフォンを使った短文のコミュニケーションが広がる中で読書や新聞を読む機会が減っており、一定量の文章に触れる機会が少なくなっている」と指摘しています。今回の責任者であるアンドレアス・シュライヤー教育・スキル局長はデータに基づかない評価はあってはならないと従来から調査の意義を述べています。今回、日本は特に科学分野で良い結果を出しており、また、課題になっている学習意欲は改善可能であると述べ

ています。「PISAは、自国の教育が持っている可能性を映し出す鏡」と我が国の教育を評価しています。

さて、肥沼信次という人を紹介いたします。彼は終戦後ドイツのリーツェンに残り発疹チフスの治療を行った医師です。実は医師になる前に東京物理学校で数学を教えています。数学が好きでまた才能がありました。八王子出身で東京府立二中を卒業したのですが、中学時代にアインシュタインが来日し、感銘を受けて物理学や数学に夢中になりました。しかし実家が代々の医師なので、日本医科大学に進学して、医師となりさらに東大で放射線医学を学び、ドイツに留学しました。大使館の帰国命令に逆らい、自らの感染を恐れずに昼夜を問わず伝染病にあえぐ患者の治療に尽くし、多くのドイツ人の命を救いました。そして自ら発疹チフスに感染し昭和21年3月8日にドイツのリーツェンで世界しました。ベルリンの壁が崩壊するまで日本では彼のことは全く知られていなく、一方、地元の市役所には名誉市民として功績をたたえたプレートが飾られ、桜を見たいという最後の言葉に添えてリーツェン市内に桜の木が植えられ、春には満開になるそうです。物理学校で数学を教えていた素晴らしい先生のお話です。

最後に理窓教育会のこれからの使命は、大学間の競争が激しくなる中、教育に対する愛情や使命感をもつ多くの後輩を育成し大学を盛り立てることであると考えます。そのためのネットワークが理窓教育会です。ご活躍の様子などをぜひご連絡を下さるようお願いいたします。

(私立文華女子中学・高等学校長)

支 部 報 告

北海道支部総会報告

支部長 (54 理工数) 佐々木 高至

平成 28 年度の総会・懇親会は平成 28 年 10 月 15 日 (土) 午後 6 時から札幌駅近くの会場で開催しました。

今年度、私が退職という事で次期支部長を依頼していた藤井勝弘校長が、わざわざ遠く十勝より、参加していただき、佐藤文彦事務局長ともども、頼もしく思った次第です。その時の支部総会の様子を簡単に報告します。

参加者は 9 名でした。はじめに、役員改正の案を提示し、次期支部長の推薦を行いました。満場一致で、音更高校の藤井孝広校長に決定致しました。他の役員に関しましては留任で承認をいただきました。その後懇親会に移りました。参加者は、年齢も勤務先も異なりますが、日々の教育実践や近況報告などで大いに盛り上がりました。

現在の課題は、参加者を増やすことと、新しい会員の把握です。名簿では、108 名ですが、ここ数年は新規の確認がなかなかとれず、教育会や理窓会と協力し、支部の連携を強くしたいと考えています。

青森支部報告

支部長 (48 理工物) 阿保 民博

本県においては、教育会の活動が行われていないこともあり、まず今年度の理窓会支部総会の報告をさせていただきます。

支部総会は、平成 28 年 6 月 18 日 (土) 16 時から、八戸市の八戸プラザホテルで開催されました。支部長の開会挨拶の後、本山和夫理事長から大学の現況報告、福田理窓会副会長から理窓会活動報告、森野維持会会長からは東京物理学校の生い立ちについてお話をいただき、創立者先生方の教育に対する熱意に皆感銘を受けました。続いて、平成 27 年度の活動報告・会計報告があり、青森地区の会員有志が毎年企画している「おもしろサイエンス」について今年度も実施予定である

と報告がありました。

写真撮影後、懇親会へと続き、支部長挨拶、福田副会長乾杯の音頭で、思い出話や近況報告で懇親を深めました。今年度は、こうよう会青森支部からも佐藤支部長、高橋副支部長のご出席をいただき、大いに盛り上がりました。森野維持会長の中締めで次年度開催地である青森市での再会を約束し散会しました。

さて本校 (八戸工業大学第二高等学校、現在校長を務めています。) は「見える力」(学力や習熟力) と「見えない力」(経験や体験をとおして培われる創造力、問題解決力、協働力などの力) をバランスよく育て、逞しく生きる力を高校時代から育てることを教育目標にしています。最近話題になっている本で「L I F E S H I F T・100 年時代の人生戦略」があります。ここでは今の高校生の平均寿命が 100 歳くらいになるという前提 (かなり確かなことらしい) で、およそ 80 歳まで働く人生が描かれています。およそ 60 年間働く人生において何回かの転職や職種代えの際には、新しいことを学び抜く力や、経験や体験からしか得られない知恵や直観を土台にした人間力の必要性が書かれています。本校の教育目標はまさしくこれからの教育の基本となることを確信し、意を強くした次第です。

岩手支部総会報告

理窓会岩手支部長 (54 理工数) 福士 猛夫

例年、理窓教育会岩手支部総会は、理窓会岩手支部総会と併せた形で開催しており、本年度は平成 28 年 11 月 19 日 (土) 11:00～「ホテルエース盛岡」において、13 名の支部会員の出席を得て開催しました。

はじめに、情報交換会として、前釜石高校長の互野恭二先生から、釜石高校の全国選抜高校野球出場の経緯と応援体制等について講演を頂きました。東日本大震災の被災地から甲子園に出場し、アルプススタンドがスクールカラーの紫に染まり、対戦校の赤一色に染まった応援団との応援合戦が試合を盛り上げてくれたというお話がありました。そのことに加え、岩手県高野連会長である理窓会岩手

支部副支部長の眞岩一夫先生がその時の試合の様子や応援について盛り上がりを再現するかのようにお話しがありました。次に、私の方から「黒沢尻工業高校専攻科の紹介」ということで、本県唯一の工業系専攻科のことに情報を提供しました。北上川流域ものづくりネットワークとの連携、大学・高専及び企業との連携の様子と卒業生全員が県内企業に就職していることを知っていただけたと思っています。

情報交換会終了後は、理窓会岩手支部総会を開催し、来賓の方々から、大学及び理窓会について情報提供をいただき、総会後は恒例の懇親会を開催し、終始和やかな雰囲気のうちには終了することができました。

秋田支部総会報告

支部長(52 修化) 佐藤 秀子

平成 28 年度支部総会の報告をもって教育会の報告とします。総会は、来賓として大学から常務理事の吉本成香先生、理窓会会長の石神一郎先生、維持会会長の森野義男先生、こうよう会からは秋田支部長の保坂恵美子様はじめ 5 名の方をお迎えして、平成 28 年 10 月 15 日(土)に秋田市の「ホテルパールシティ秋田竿燈大通り」で開催されました。

昨年は、32 名の出席で全国平均に並びましたが、今年は更にそれを上回る 37 名の出席で、40 名にあと一歩、特に平成卒の若い人たちが増えており、嬉しい限りです。(ちなみに教育会関係は、出席支部会員 29 名中 13 名でした)

さて、総会では予定した案件(会務報告・会計収支決算)がすべて承認されました。

総会終了後、来賓の先生方から大学と理窓会の現状等、後輩の活躍を伺い、同窓生として誇りに思いました。

次いで講演。講師は荒谷卓氏(明治神宮武道場至誠館館長、S57 理工・土木)。演題は「神道と武士道精神を通じた世界の人々との交流から」。国内外で“世のため人のため”になる人材育成に尽力している氏は、普段深く

考えたことのない「神道」とか「武士道精神」について、現在のご自分の仕事と関連づけてお話し下さり、興味深く拝聴致しました。

その後の懇親会では、和やかな雰囲気のもと楽しいひと時を過ごすことが出来ました。なお、29 年度の総会も本年同様、10 月第 3 土曜日の 21 日に開催予定です。是非お知り合いの方をお誘いの上、出席下さいますようお願い申し上げます。支部総会の報告と致します。

群馬支部総会報告

支部長(60 理数) 富田 忍

理窓教育会群馬支部総会は平成 28 年 11 月 26 日(土)に行われた理窓会群馬支部総会と同時に開催されました。

まず大学側から常務理事岡村総一郎様、理窓会会長石神一郎様のご出席をいただき母校の現状と今後の取組について詳しく説明を頂きました。葛飾キャンパスでの大学教育や研究活動、更に世界を視野に入れた大学改革の取組、及び理窓会の現状と今後の在り方等、母校の益々の発展が実感できる内容でした。

次に、理窓会群馬支部の中澤治支部長と出身高校同窓会で繋がりがあり、理学部数学科出身の同窓生でもある、(株)ナカダイ常務取締役中台澄乃様に「リサイクル率 90%、バスツアーも訪れる廃棄物処分量について」という演題でご講演を頂きました。廃棄物処理の仕方についての興味深い内容で、そのほとんどがリサイクルに回る現状を詳細に説明されました。正に毎日の生活そのものが問われており、大変勉強になるお話を伺いました。

その後の懇親会では、参加者一人一人から近況報告をいただき、自分の大学時代を振り返ると共に、現在の産業界や教育界の状況を確認しながら今後の在り方について情報共有をしました。これからの時代を担う若者に期待したい現状も明らかになり、群馬県の理窓会や理窓教育会で繋がった各年齢層の人間関係が有益な財産となり、益々重要となることを再認識しました。

群馬支部の理窓会及び理窓教育会の更なる発展を誓い合い散会となりました。

埼玉支部総会報告

支部長(59 修理工情) 松本 恭介

平成 28 年度理窓教育会埼玉支部総会は、平成 28 年 7 月 3 日(日)午後 1 時半から開催の理窓会埼玉支部総会・講演会・懇親会に合わせ、東京理科大学神楽坂キャンパス富士見校舎にて、正午から開催しました。長澤智則顧問(理窓会埼玉支部長)にご挨拶をいただき、前年度事業報告、同決算報告、新年度役員等人事案、同事業計画案、同予算案について慎重審議を行い、満場一致で承認されました。

午後の理窓会埼玉支部講演会では、読売新聞社元論説委員、科学ジャーナリストである本学 OB の馬場錬成氏から「大村智先生・ノーベル賞への道」という演題でご講演をいただきました。大村先生のお人柄と業績の偉大さが大変よくわかるご講演でした。

そして、恒例の理窓教育会埼玉支部講演会は 12 月 3 日(土)午後 4 時半から上尾バンケットルームにて開催されました。富岡康夫理窓教育会長にもご参加いただき、管理職から初任者までの 25 名が参加し、高校生や保護者対象の講演で好評を博している多摩大学入試課高部大問氏を講師に「社会で誰が求められているか」と題してご講演いただきました。学生時代から海外生活の豊富な経験やリクルート勤務時代に人事課で新入社員面接を担当していたことなどの経験を踏まえ、時代による求める人材の変遷や著名人に例えた人物像パターンも盛り込み、非常に興味深い内容でした。

高校の進路指導はとかく「どこの大学に進学させたか」で評価される傾向が強い中、「将来求められる人材を育成する」という視点で進路指導を考え直すきっかけとなり、その示唆に富んだ内容は大変好評でした。その後の懇親会では、管理職のみならず若手教員との親睦も深めることができ、参加者一同にとって大変有意義な時間となりました。

東京支部総会報告

支部長(48 理化) 富岡 康夫

平成28年度の東京理科大学理窓教育会東京支部定期総会は5月22日(日)午前11時15分より、東京理科大学神楽坂校舎3号館333教室で開催した。先立つ午前10時半より同教室で全国の理窓教育会の理事会を開催した。平成28年度も日程等の都合で書面総会を実施すること、そして平成27年度決算、28年度予算。28年度役員人事等の議案の検討を行った。監事として神奈川支部の大嶋啓子先生も参加された。今年度も理窓会の東京支部総会が午後には開催される同日に教育会東京支部定期総会を開催した。竹村精治理事の司会で始まり、挨拶を東京支部長の富岡が行った。中教審の理数の検討が進み、現行の科目や指導内容が維持されること、SSHの成果を生かして理数探究が設定され自ら課題を設定して研究する数学理科の融合した科目が考えられていること、東京都では公立の高等学校の生徒にタブレット端末を持たせる計画であることなどを紹介した。次に議事で、平成27年度各部・各委員会の活動報告、会計報告(案)、さらに平成28年度役員(案)、平成28年度の活動方針(案)と予算(案)が了承された。松原担当理事より、平成28年10月30日(日)に葛飾キャンパスで実施の「第11回ホームカミングデー」への参加の呼びかけと、平成29年度の「第12回ホームカミングデー」は野田キャンパスで理工学部開設50周年を期して行う予定であることが紹介された。坂本理窓会副会長より大学主催に変更された「第8回坊っちゃん科学賞」への生徒発表のお誘い、理窓教育会が全面的に支援することについてのお願いがあった。今後の理窓教育会の発展のために会への積極的参加と会員拡大のために研修会の実施などの方策の意見が出て、検討することになった。

本総会終了後、会場を1号館17階会議室に移動し理窓会東京支部と合流し、総会を実施した。報告では本山和夫理事長より大学の現状の説明、石神一郎理窓会会長より理窓会の現状の話、森野義男維持会長より募金の要請があった。その後、ノーベル生理医学賞を受賞された大村智先生について、元読売新聞論説

委員の馬場錬成氏の講演があった。大村先生のエピソードの溢れた内容で感銘を受けました。また、ノーベル賞授賞式に同行した時の様子などお話いただいた。最後の懇親会は、来賓のこうよう会、近隣の支部の皆様と楽しく交流が進んだ会でもありました。

千葉支部教職員部会からの報告

教職員部会長 (56 理化) 古川知己

平成 28 年度、千葉支部では眞田孝則支部長の下、5 月 8 日に事務局会議、6 月 12 日に役員会、7 月 30 日に研修会・若手教員交流会、8 月 21 日に総会・講演会を行い、1 月には教職員部会会報を発行しました。

総会では、藤嶋昭学長、石神一郎理窓会会長をお招きし、大学並びに理窓会活動の状況についてご報告をいただきました。総会後は、「患部をピンポイント攻撃する未来の薬」と題して、東京理科大学工学部池北雅彦教授によるご講演をいただき、薬が患部に働くメカニズムや最近注目されている「分子標的薬」、個人の遺伝子タイプに応じたオーダーメイド治療等、最先端の研究内容を丁寧に説明していただきました。講演後は活発な質問が投げかけられ、参加者一同、見識を高めることができました。

若手教員交流会は、千葉県教員として採用後 5 年以内の県内公立学校に勤務する有志教員を対象として、①小中高特支若手教員同士の交流・情報交換の場、②若手教員のキャリアプランニングの一助、③若手教員とベテラン教員との交流等を目的として 2 年前から始めました。平成 28 年度は、中学校及び高等学校の若手教員が、ファシリテーター役のベテラン教員の指示で、各学校での課題や日ごろから思っていること等を付箋に書いて模造紙に貼り、共感したり、愚痴を言い合ったりしながら整理していきました。その後、高大接続改革、キャリア教育、生徒指導上の留意点等について、資料をもとに説明を受け、さらにはアクティブラーニングについて現在実践している取組を発表し、意見交換をしま

した。交流をしながら若手教員だけでなくベテラン教員も多く刺激を受け、互いに大変有意義な研修会になりました。今後さらに多くの若手教員が参加できるようにするための方策を検討していく必要があります。他の支部で参考になる取組があればお知らせくださると幸いです。

神奈川支部活動報告

支部長 (41 理物) 鈴木 宏司

平成 28 年度は理窓教育会神奈川支部として単独の活動はありませんでしたが、教員が参加したいくつかの催しについて記します。

一つ目は理窓会神奈川支部の「定期総会」「賀詞交歓会」です。「定期総会」は出席者 77 名で、その内、教育関係者は 19 名でした。姜尚中氏による講演“文化力としての教養～漱石の世界から学ぶ～”もあって充実した会となりました。次に、「賀詞交歓会」は出席者 69 名で、その内、教育関係者は 20 名でした。企業の方々との交流もあり良い情報交換ができました。

二つ目は神楽会です。これは県立高校の管理職の集まりです。年二回実施しておりましたが、後述の経緯で今年度から一回となり、出席者 27 名のもと 7 月に行われました。進学塾の方を講師に招いて“学習塾から見た高校入試 ～中学生はどのように学校を選ぶのか～”の講演があり、別の角度からの視点が得られる等、有意義なものでした。

三つ目は理窓神奈川教育会です。これは、前述の神楽会と異なり会員の所属範囲を広げたものです。即ち、県立高校だけでなく、義務、私学を含み、そして、現役、OB・OG に関係なく、さらに、管理職だけに限らないとしたものです。今年度スタートで、第一回の総会を 11 月に行いましたが、それぞれの校種、及び、地域で核になる人を中心に出席者は 51 名でした。今後多くの同窓が参加してくれることを大いに期待しているところです。

山梨支部総会報告

支部長(53 理物) 橋田 多喜夫

山梨支部総会は、毎年理窓会山梨支部と合同で開催している。本年度は平成 28 年 10 月 10 日(月) 15 時から甲府市「ニュー芙蓉」で 15 名の参加で開催した。

来賓として、東京理科大学理事長本山和夫様、理窓会副会長島崎益男様、諏訪東京理科大学学長河村洋様、こうよう会山梨支部長樋川秀雄様、こうよう会山梨支部会計長田満様をお招きした。

本年度も総会に先だって講演会を実施し、今回は平成 28 年「第 18 回坊っちゃん賞」を受賞された瀧田武彦様(山梨支部会員、平成 23~25 年度山梨県教育委員会教育長)に、演題「あなたの Identity 教えてください」のご講演をいただいた。県教育長時代のこと、教員として伝えようとしたことなど、教育行政を通じてのご苦勞や思いをお聞きした。

総会では、ご来賓からご挨拶をいただき、大学理事長本山和夫様からは、大学の現状及び取り組み状況、創立 135、140 周年を見据えたキャンパスの全体計画、理工学部 50 周年野田キャンパス再開のこと、志願者が毎年増加し、受験者数が維持されていることなどをお聞きした。また、公務員・教員への進路状況の良さや「世界に冠たる大学に向けて」外部資金獲得と起業支援や研究・教育力強化などの方策を伺った。理窓会副会長島崎益男様からは、理窓会活動について、現状と今後の展開や、様々な取り組みを通して、理窓会の支援活動・募金活動を伺った。諏訪東京理科大学学長河村洋様からは、公立化の準備について概要をお聞きした。こうよう会山梨支部長樋川秀雄様からは、県内でのこうよう会の活動報告をいただいた。

皆様のお話から、大きく発展を続けている母校の現状を知ることができ頼もしく感じた。また、在学生・卒業生に同窓会組織の存在を知らせることも大事であり、理窓会・理窓教育会・こうよう会が、今後もいっそう連携を深めていくことを確認した。

静岡支部総会報告

支部長(55 修薬)樋口 和男

平成 28 年度理窓教育会静岡県支部総会は平成 29 年 2 月 11 日(土)に静岡市で開催された。

総会の母校関係の報告では山口東京理科大学と諏訪東京理科大学の公立学校法人化、本県関係の報告では小中学校の統廃合の動向が説明された。特に小中学校の統廃合では学区の広域化に伴う通学手段の確保、小中一貫校化では小学校と中学校を一つにする難しさなどが報告された。

また、懇親会での宿題(四則の混合計算で、掛け算や割り算を先にすることを小学生に分かるように指導する方法)の解説では、例えば 1 個 50 円のパン 8 個と 1 個 60 円の牛乳 4 個の合計金額なら、 $50 \times 8 + 60 \times 4$ の式が浮かぶ。大切なのはパンと牛乳の金額(円)を個々に求め合計する考えであり、単価(円/個)に個数を掛けることで個々を金額に揃えて加算することである。つまりポイントは「単位を揃える」ことと結ばれた。

この「単位」の説明に代表されるように、小学生に計算の意味を考えさせたり、考える楽しさを教えたりすることは難しいが、理学教育のためには小・中・高と発達段階に応じた系統的な指導が必須である。この系統的指導に着目すると小中一貫校の増加は、母校の理学教育を小学校の指導に生かすチャンスと捉えるべきであろう。

懇親会での宿題のように本会は義務教育と高校教育の先生方が垣根を超えて意見交換できる場として、今後もより連携を深めて理学の発展に貢献できればと思う。

長野支部総会報告

支部長 (58 修理工土木) 森本 克則

長野支部総会は理窓会信州支部総会にあわせ平成 28 年 10 月 16 日(日)に松本市で開催されました。本学常務理事の吉本成香様、理窓会本部の渡邊一郎副会長をお迎えして母校の現状報告を拝聴いたしました。また、諏訪

東京理科大学長の河村洋先生にご列席をいただき、平成 30 年 4 月からの公立化に向けて、最終段階の準備に入った状況報告を拝聴いたしました。保護者の会「こうよう会」から長野県支部長様と副支部長様にもご参加をいただきまして、理窓会信州支部 23 名の参加とあわせて 28 名の会となりました。

信州支部会員 23 名は、県内高等学校で教職についておられた方々、地域の企業で活躍されている方々、現在、諏訪理科大学や高等学校において教鞭をとっている方々です。日頃、母校との繋がりで感じていること、昨今の進学状況、母校に期待すること、同窓生の活躍ぶりなどの話題で交流を深めることができました。理科大卒業生は、「坊っちゃん」で代表されるように伝統である理数系教職関係者が多いわけではありますが、長野県の特徴としては工業系教育への奉職が多いことがあげられます。諏訪東京理科大学が茅野市に開学して 20 年以上が経ちますが、大学には同窓生の教職員も多く在籍し、その同窓生の働き掛けもあって、近年では県内工業系の高等学校との高大連携に発展し多くの教育的効果が出ているところです。諏訪理科大学との高大連携は、近い将来に実施が予告されている高大接続改革に沿った、高度な専門技術に触れる機会として多様かつ総合的な学ぶ機会として捉えられ、大いに期待できるものであります。今後、諏訪東京理科大学が地域に根ざした大学として、工業のみならず普通高校との連携も深められ、理系教育の一役を担ってほしいと願いますし、延いては理科大学が益々発展することを期待するものです。

富山支部総会報告

支部長 (60 理化) 近藤 智久

理窓教育会富山支部総会は、理窓会富山県支部定期総会と兼ねて開催しています。今年度は、平成 28 年 8 月 27 日(土)14 時から、会場の富山地鉄ホテルに 21 名が参加し開催されました。「こうよう会」からも鎌田和弥富山県支部長に参加をいただきました。

総会では、ご来賓の横倉隆東京理科大学理事、石神一郎理窓会会長からご挨拶があり、発展を遂げる母校の現状と将来へのビジョンを伺い、世界の理科大へと飛躍し魅力ある大学として、ますます存在感を高めていく母校の姿を想像することができました。議事では、27 年度会務報告、会計報告が承認され、教育会報告がありました。今年度は役員改選が行われ、長年にわたり会の発展にご尽力された本多宗高氏に代わり、滝本恒平氏が新しく理窓会富山県支部会長に就任されました。

総会に続き、「スカイインテックの取り組み事例－ROE 経営とリスク管理－」と題して、スカイインテック常務取締役 中川潔氏による講演を開催しました。企業のみならず学校教育の現場においてもリスク管理の大切さを改めて知り、今後の在り方について貴重な示唆をいただくことができました。講演終了後は、中川先生をはじめご来賓各位を囲んで参加者全員で記念撮影をし、懇親会を催しました。意見交換や近況報告などで大いに盛り上がり、会員相互の親睦を深めることができました。より一層の理窓会富山支部の発展を祈念し、盛況のうちに閉会しました。

岡山支部総会報告

支部長 (46 理工数) 三浦 康男

念願だった理窓教育会岡山支部を一昨年に設立し、早 2 年が経ちました。活動内容は、会報第 48 号にも書きましたが、総会の開催、現職教員をはじめとする会員の相互親睦や、「こうよう会岡山県支部」との交流がありますが、昨年の活動を少し詳しく報告します。

昨年の総会は 7 月 30 日(土)に開催いたしました。昨年この時期は、高校総体が岡山県を中心に開催されていたため、現職の高等学校の会員の参加はありませんでしたが、現職の管理職を中心に 7 名が参加し、会の今後の活動内容などについて協議しました。

学生が卒業して、地元岡山に就職するのは教員志望者が多いと思われることから、「こうよう会との連携を密にして、教員志願者の採用試

験合格に向け、そのお手伝いが出来ればよい。」との意見が多くありました。幸い、会員の中には教育行政経験者も多くいるため、教員合格者や採用試験前に教員志望者との懇談会を、こうよう会からの要望があれば開催するよう準備を進めることや、会員相互の資質向上のための情報交換の必要性などについて協議しました。これらを基に、活動を具体化していきたいと思えます。

急がれるのは、教育会岡山支部の名簿の作成で、連絡のためのパソコン等のアドレスを名簿に加えることも必要と考えられるが、情報の取扱には十分気をつける必要があります。出来れば平成29年度中には名簿の原案を作成し、総会などで会員の意見を聞きたいと考えています。名簿ができれば、例えば新任教員との懇談会の開催なども考えられ、活動が広がると思われます。

広島支部総会報告

支部長 (47 理数) 河野 正憲

教育会支部総会は、平成 28 年 9 月 25 日にセンチュリー21広島で理窓会支部総会に先立って会員 9 名が出席して開催しました。議事内容は次のとおりです。

- ① 平成 27 年度の行事報告および決算報告
- ② 平成 27 年度の行事予定および予算案
- ③ 役員改選
- ④ 意見交換等

総会出席者の減少と近年の教員新規採用者ゼロへの対策を話し合いました。

恒例の理窓会支部会員による講演会は「広島に生まれたマツダという会社のことを知っていますか？」の演題でマツダ株式会社和泉知示氏(56 理工電気)により、マツダの概略・歴史および世界や日本におけるマツダの現況子供の頃の車に対する楽しい思い出ブービー(ズームズーム)を大切に、感性で感じる車づくりをめざし、“ブランドを大切にし、お客様にとってなくてはならないオンリーの会社”にしていきたい。という話をさせていただきました。感銘を受けました。

理窓会支部総会は会員 28 名出席、本部から

本山和夫理事長、増淵忠行理窓会副会長、森野義男維持会会長にお越しいただき開催しました。本山理事長から「キャンパスの充実を図ること、5 万人を超える志願者数の状況、教育力の高い大学という評価を得ている現状、さらに研究力を高めていき発展する土台作りする」等々のお話を聞き参加者一同、母校のこれからの発展を確信いたしました。

懇親会では、大学本部からの来賓の方々とかうよう会から 3 名の参加者および同窓生が交流し親交を深めました。懇親会後の二次会には多数参加し、楽しい時間を過ごしました。

これからも東京理科大学で学んだ私たち同窓生は、お互いに縁を大切にして、教育会および理窓会支部会員の輪を広げていきたいと思えます。

佐賀支部活動報告

支部長(44 理化) 森永 和雄

平成 28 年度の理窓会佐賀支部総会は平成 29 年 2 月に理窓教育会佐賀支部総会と兼ねて開催を予定していた。併せて、佐賀県で開催される「こうよう会」の九州総会の日を重ねて実施し、その「こうよう会」で企画されていた秋山仁氏による講演を拝聴する計画であった。しかし、諸般の事情で講演が中止されるとの報を受け、協議の結果、楽しみにしていた会員も多かったが、佐賀支部総会の開催も断念することとした。そこで本年度は役員を中心とした小規模の会を開催するにとどめた。

佐賀は小規模県であり、会員の住所把握ができていないのは 200 余名である。そんなこともあって支部活動も固定し、参加者も少ない状況が続いている。この状況改善の方策を役員等で思案しているところである。

先の役員会で今後の取組について協議した努力目標は次の 7 点である。

- (1) 支部活動に会報発行を企画し、会員相互の近況把握や交流を深める場を設ける。
- (2) 佐賀県の「こうよう会」との連携を図る。
- (3) 理科大の新規卒業生の進学・就職状況の把

握に努め会員数増の足がかりとする。

- (4)本県への教員採用を目指す者へ「こうよう会」と連携し、教職経験の会員による採用試験へのアドバイスを行う。
- (5)特に高校に在職する会員は理科大が実施している「坊ちゃん科学賞」への応募を積極的に啓蒙する。
- (6)本県高校卒業生の理科大への受験者数はそれなりにあるものの入学者が少ないことに関して理科大の良さを啓蒙する方策を考える。
- (7)本支部役員が知り得た理科大の現況等について、広く会員に伝えると共に「ホームカミングデー」へ会員の派遣を行って、支部活動の活性化を図る一助とする。

**坊っちゃん科学賞について
(48 理物) 長谷川 純一**

「理学の普及」を理念とする東京理科大学『坊っちゃん科学賞』も第 8 回を迎え、63 校の高等学校から 168 件の科学論文が寄せられました。分野別審査会、総合審査会を経て、10 月 30 日、葛飾キャンパスで「研究論文コンテスト」が開催され、優秀賞 5 校の発表がなされました。

今回の発表では、5 校ともに写真やグラフ等の提示資料が整理されていて、発表者が原稿を読むことなく研究内容を明確に伝えていたという特徴がありました。高校生の研究活動の高まりとともにプレゼンテーション能力も確実に高まってきたことを感じさせるものでした。

人工飼料をカイコに与えて繭を着色させる研究を長期間にわたって行い、飼料と繭の色の関係を導き出した島根県立益田高等学校「ローダミン B を使ってつくった赤い繭・青い繭、クワの葉を使わない人工飼料で繭に有効な色をつける方法」が最優秀賞に輝きました。茨城県立水戸第二高等学校「閉鎖系 Belousov-Zhabotinsky 反応の酸素による影響」、愛媛県立松山南高等学校「コンクリート壁から出る天然放射性核種の崩壊」、広島

大学附属高等学校「三角関数に成立する恒等式についての考察」、埼玉県立浦和第一女子高等学校「ゾウリムシの培養温度に対する反応」に優秀賞が授与されました。

研究を継続的に進めてこられた市川学園市川高等学校、神奈川県立西湘高等学校に学校賞が授与されました。

高校生の真摯な研究の成果が「研究論文コンテスト作品集」にまとめられました。是非、お読みいただきたく存じます。

(巻末に関連資料を掲載しました)

**坊っちゃん賞を受賞して
(30 理数) 伊尻 政一**

卒業式出席のため乗車した上野 14 時発のスーパーひたちが、常磐線石岡駅通過後間もなく急停車した。車内放送で強い地震があったと知らされ、やがて車内放送もできなくなった。16 時頃石岡駅からの連絡で石岡高校体育館まで徒歩で避難。翌日の早朝 6 時に高校を出発し、自宅に 16 時過ぎに着きほっとした。これは 6 年前の 3 月 11 日のことです。

思えば 20 年前、芝浦工大高校と海城中学高校退職後のことでした。学ぶ意欲がわかず高校を中退したり、いじめなどで高校進学を諦めたりする生徒が多く、この生徒たちが再び学習できる学校が必要だと考えているとき、東京神田にあった昌平高校（明治 35 年開校、昭和 46 年休校）をいわき市に昌平中学高校として再校するため協力してほしいと依頼されました。私は 65 歳を過ぎておりましたが「教育に定年なし」「情熱がなくなった時が定年」という言葉をもらい、平成 9 年 10 月昌平校再校に向けて活動を始めました。設置認可申請には、芝浦工大での財務理事・那須高原海城中高新設の経験を生かし、翌 10 年 11 月設置認可されました。認可後は校長として、12 年 4 月開校に向け校舎建設・教職員の募集と準備に追われました。更に 19 年 4 月、私の夢であったフリースクールを通信制課程として設置し、現在も数百名の生徒が学んでいます。

私の教員生活の中で、最後の昌平中高での

10年間は自分の理想通りの運営ができました。昼食時には交替で十数名の生徒と校長室で食事をし、生徒の話を聞いたりパズルを楽しんだりしました。また学習合宿や各学年の行事等に参加し、多くの生徒と話す機会を得ました。通信制学習センターの授業も担当し、教師としての喜びを満喫できました。

自分では普通に好きな仕事をしたつもりでしたが、授賞式で坊っちゃん賞を手にしたとき感激いたしました。今まで私を導き支えて下さった方々と、この度私を推薦して下さいました教育会の先生方に感謝申し上げます。

**グローバルサイエンスキャンパス
プログラムについて**
プログラムコーディネータ
(49 理物) 春山 修身

高大連携の新たな試みとして JST (科学技術振興機構) が提唱して平成 26 年から始まったグローバルサイエンスキャンパス (GSC) 教育プログラムも、平成 29 年度で 4 年目を迎え、本学を含めて 1 期採択校 8 校は、最終年度を迎えることとなりました。現在、昨年度採択された 2 校を含めて全国 15 大学でプログラムが実施されており、本年度新たに 2 校を追加公募中です。本学は、3 月 12 日の修了式を終えると 3 回目のプログラムを終了し、平成 29 年度にあと 1 回を残すのみとなりました。

本学のプログラムは 2 年の教育期間、初年度は基礎コース生 60 名、2 年次は基礎コース生の中から選抜した発展コース生 20 名、を区切りとしていますので、平成 29 年度は基礎コース 4 期生 (6 月 25 日選抜試験) と、基礎コース 3 期生から選抜された発展コース 3 期生 (3 月 12 日選抜試験) とがプログラムを受講します。また、本年度に選抜される基礎コース 4 期生は基礎コース 1 年間のみの実施となります。本年度の変更点は、募集対象として高等専門学校生も含めることとなりましたので、本学でもこの変更に沿って募集要項を作成する予定です。また、3 月中に、本年度のプログラム概要を記したパンフレットを 1 都

3 県の公立高校、中等教育学校、高等専門学校に郵送します。プログラムの詳細は下記の URL か、本学のホームページから入る専用のウェブサイト (グローバルサイエンスキャンパス) を参考にして下さるようお願いいたします。

本学 OB 教員の皆様、学内教員の皆様のお力添えをいただいて本プログラムを実施して参りましたが、最後の年度を迎えるに当たって一層の努力をして参りたいと考えていますので、よろしく願います。

(GSC のウェブサイト://www.tus.ac.jp/gsc/)

宇宙教育プログラムについて
大学企画部理数教育推進室 森 知春

1. はじめに

宇宙教育プログラムは、文部科学省の宇宙航空科学技術推進委託費により、平成 27 年度より宇宙飛行士の向井千秋副学長を代表者として実施しております。事業目的は、国際的に活躍できる次世代宇宙科学技術者の人的基盤の裾野拡大と構築としており、最先端の宇宙科学技術による本物体験を通じて宇宙科学技術を理解し、教育現場にその魅力を広く発信して興味の醸成を促すことのできる理科教員と、宇宙開発・宇宙産業の将来を担う研究者・技術者を輩出することです。

2. 実施体制

本学には、「宇宙」の名称が付いた学部・学科は設置されておりませんが、天文、流体工学、微小重力、宇宙医学、搭載機器開発などの宇宙関連の分野で活躍している教員が学内の多くの学科に所属しております。本プログラムは、それらの教員をいわゆる「宇宙」というキーワードで結び付けた全学横断型のプロジェクトとなっております。

現在、山本誠教育担当副学長のもと、向井副学長を始めとする宇宙関連の教員 17 名が本事業に参画しプログラムを実施しています。

3. 選抜

平成 28 年度は、募集を 4 月から行い、大学生 18 名、高校生 12 名を選抜しました。

本プログラムでは、ルーブリックを用い、以下の 5 つの観点により受講生の選抜、プログラムの検証等を行うこととしております。

- ・ 宇宙科学技術への興味と関心
- ・ 宇宙科学技術の魅力の発信や普及、技術の発展を担うための意欲
- ・ 国際的な感覚を養う意欲
- ・ 仲間や教員と積極的にコミュニケーションをとる姿勢

上記には、「宇宙」というワードが含まれておりますが、いずれも「宇宙」だけでなく、グローバル化の社会にも通じる観点です。

大学生 18 名の受講生には、本学の学生だけでなく、他大学の学生 7 名が含まれており、高校生 12 名の中には、関西圏から 4 名の生徒が参加しております。

4. プログラム

プログラムは、約 10 か月に亘り、本学教員による講義、他大学や宇宙関連機関の研究者・技術者、宇宙飛行士による講演、微小重力実験等の特別体験、海外派遣などを行います。実施にあたっては、いずれも「最先端の宇宙科学技術による本物体験」を意識しております。

例えば微小重力実験は、航空機による放物線飛行（パラボリックフライト）を行うことにより、機内に 20 秒間の微小重力環境を作り出し、国際宇宙ステーションで行われる実験と同様に、様々な制約が課せられる「本物」の環境のもとで行われます。そうした厳しい制約の中で、受講生は 6 チームに分かれ、実験内容の提案、実験装置の開発・作成、実験シーケンスの検討、チーム内の役割分担、実験データの解析など全て主体的に取り組むこととなります。実験前に数回に亘り行われた実験内容検討会では、大学生、高校生といったカテゴリーは関係なく、一人の研究者として扱われ、実験に関する専門的な議論が行われました。

このように「本物」を通じて、課題解決のための思考力、判断力、表現力を養い、チーム活動を通じて主体性、協調性を修得できるプログラムとなっております。

プログラムの詳細は以下よりご覧ください。

<https://www.tus.ac.jp/uc/>



同窓の活躍

「北海道での充実した教師生活を振り返って」

**北海道札幌旭丘高等学校長
(54 理工数) 佐々木 高至**

私は、北海道岩内郡共和町で生まれ、高校は岩内町の岩内高校に進学した。大学を選ぶ頃は、都会へのあこがれが先行し、今思えば大変不謹慎であるが、理科が大好きだった私は、「東京」と「理科」の二つの名前を有する「東京理科大」に魅力を感じていた。さらに決定づけたのは、高 3 の時の数学の担任(森猛先生)が「東京理科大」卒であったことである(抜群の指導力であこがれた)。他は受験しないと心に決め、理学部と理工学部の 4 つの学科を受験し、黄色の合格通知(補欠合格)の届いた理工学部数学科に進学することとなった。

入学してからは、関門教科等に苦しめられながらも、何とかしのいで 4 年になれた。しかし、理科大は甘くない。卒業するために多くの単位を残し、さらには卒研もこなさなければならなかった。最後の 1 年は、私と同じ境遇の仲間が集まり私の部屋で、卒業するための学習合宿と共同生活が始まることになる。寝る暇も惜しみ、互いに励まし合い、勉強し

た日々は、今でも忘れない。その甲斐あって、かろうじて卒業できた私は、晴れて故郷北海道の道立高校の数学教師として社会人のスタートを切る事ができた。

最初の赴任地は厳寒の地「旭川」の少し北に位置する「和寒町」。ある日廊下に出してあった瓶ビールが、冷え込んだために破裂し、ガラスは飛び散ったが、中身のビールは凍結したまま、瓶の形を保って元気に立っているのを発見したことがある。それほどに厳寒の地である。しかし、内陸性気候のため、夏は30度をはるかに超える日もある。部活動は「ソフトテニス」の顧問を引き受けた。元々卓球が専門で同じラケット競技であると思って、指導初日に女子部員と試合をして見事に惨敗した。負けず嫌いの私は、その日から秘密練習をし、1ヶ月後には見事リターンマッチで勝つことができた。以来、「ソフトテニス」の魅力にはまり、指導に情熱を傾けることになる。その縁があって、続いて赴任したのは、ソフトテニスの道東の実力校「釧路星園高校」である。雄大な釧路湿原と丹頂の町「釧路」は、日照時間の一番長い秋が一番温かく感じ、夏は全市冷房付きといった感がある。夏は、濃霧が発生し町全体を覆い、気温が10度にも達しない日がある。地元では「ぢり」という海霧（俳句においては夏の季語）が発生し、外に出ると全身ずぶ濡れとなり、夏なのにストーブをつけるという有様である。ここでも部活動指導に明け暮れた。しかし、思い出深い両校とも今は閉校して存在しない。過疎の進む北海道の現実を改めて感じる。両校の生徒達は総じて明るく素直で人なつっこく、悪さもするが憎めない生徒達であった。その後札幌に異動したが、ここでもソフトテニスの専門委員を務め、いつの間にか専門家になっていた。一方で、本格的な進学の教科指導がしたいと考えていたことから、札幌市立の高校採用面接を受けることにした。そして赴任できたのが、今校長として最後を迎える「札幌旭丘高校」である。学習指導と生活指導のバランスのとれた充実した教師生活を送ることができ、今に至っている。様々な失敗をし、

そこから多くを学び、今日を迎えた気がする。私の人生訓の一つに、論語の「徳は孤ならず、必ず隣あり」という言葉がある。いまだ徳は身に付いていないが、それを身に付けようと、これからも修行を積んでいこうと思っている。

最後になるが、愛する北海道のために「北海道高等学校教育研究会」の会長として4年間、教員の研修に深く関わったこと、札幌市立高等学校長会の会長として、全国都市立北海道大会で、全国の都市立高校長に北海道の魅力を紹介できたこと、理窓会北海道支部においては「とわの森三愛高校」の佐藤文彦事務局長の絶大なる支援をいただきながら、その任を終えることができ、安堵している。

これも全て、同窓の皆様はじめ、多くの方々にも励まされ、勇気をいただいたことに尽きる。改めて感謝し、筆を置くこととする。

新規採用教員激励会について (55 理物) 並木 正

平成 28 年度理窓教育会主催の新規教員採用試験合格者激励会を平成 29 年 3 月 4 日(土)午後 3 時 30 分から神楽坂校舎 3 号館 351 教室で開催しました。

東京理科大学岡村総一郎常務理事・山本誠副学長・石神一郎理窓会会長・梅原たまきこうよう会会長をはじめとしてご来賓 6 名、教育会会員の現職・OB 教員等、出席者 35 名、また、新規採用教員予定者 45 名、総勢 86 名が出席し、激励会は盛大に行われました。

司会は並木が務めました。廣瀬和昭理窓教育会理事の挨拶に続き、ご来賓の岡村総一郎常務理事のご挨拶をいただきました。岡村常務理事からは、全国に多くの理科大の先輩方が教員をしており、連携して教育に当たっていただきたいという激励のお言葉をいただきました。続いて石神一郎理窓会会長からお祝いの言葉をいただきました。次に合格者全員が一人一人自分の名前と合格した県名等を述べました。合格者を代表して群馬県藤岡市に採用が決まった梁川昌樹君が、感謝の言葉と教職に向けた決意を力強く宣誓しました。

引き続き、松原秀成理窓教育会理事の司会で懇親会に入りました。来賓としてご出席の山本誠副学長、教職教育センター長の眞田克典教授、こうよう会梅原たまき会長、理窓教育会鈴木宏司神奈川支部長のから励ましの言葉をいただきました。そして教育会奥原千里参与の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。元気な新規採用教員の諸君から今後の抱負が述べられ、和やかな雰囲気の下、同窓としての先輩・後輩の絆を深め散会しました。

大学との連携

理事 (48 理物) 菅井 悟

理窓教育会では、理大教職教育センターが主催する各種教員採用試験対策講座に、大学からの要請を受け講師派遣や講座運営の支援を行っています。平成 28 年度も会員の皆様のご尽力を頂き、次の講座に講師を派遣しました。

1 教員採用試験対策講座【事前対策講座】

次年度に教員採用試験を受験する学生に対し、採用試験に必要な専門教養、教職教養を身につけさせるとともに、教育課題の理解や論作文能力の向上を目的とする実践的な講座です。平成 27 年 10 月 4 日～12 月 6 日の日曜日に 8 回実施し、参加者数は延 419 名でした。

2 教員採用試験対策講座【私学対策講座】

私学教員を希望する学生を対象とし、採用試験情報の提供、採用試験勉強方法などを指導する講座です。本年度は 1 月 14 日(木)に行われ 43 名が参加しました。教育会ではセンターの依頼により、私学校長経験者や現職私学教師を派遣し講演を行いました。私学適性検査過去問の解説、面接、模擬授業も行われ講師として参加しました。

3 教員採用試験対策講座【合宿コース】

論作文、面接、模擬授業など、教員採用試験の実戦力向上を目的とし、例年多くの合格者を出す人気の講座です。本年度も、野田キャンパスセミナーハウスを会場に、2 月 29 日(月)～3 月 2 日(水)に行われ学生 78 名が参加しました。教育会からは講師として首都圏から 9 名の会員が参加し、教育センター教員とともに学生の指導にあたりました。ハードな日程にもかかわらず、学生たちは意欲的に取り組んでいました。(集合写真)

4 プレ教員養成講座

4 月から小中高に新規採用される学生に、教員としての心構えや実務を指導する講座です。3 月 5 日(土)に開催され 63 名の学生が参加しました。藤嶋学長の挨拶のあと、本会会員の山谷安雄中学校長と岸田裕二高等学校長による講演がありました。教育会会長や教員採用試験対策講座で講師を務めた会員の方々も出席し学生たちを祝福しました。



**第 100 回全国算数・数学教育研究
東京大会(理科大大会)について
(48 理数)池田 文男**

東京理科大学数学教育研究会(略称 理数研)は、昭和 34 年 4 月に創立され今年で 58 年の歴史を刻んでいます。前身は、戦前に小倉金之助先生が東京物理学校に設けました数学教育研究会にあります。小倉先生の主張された「数学教育の意義は科学的精神の開発にあり、その核心は関数概念の涵養にある」の考えを基本理念として数学教育の研究活動を継続しています。

主な活動は毎年 4 月に開催される総会・研究大会、年 8 回開催される月例会、年 2 回の会誌「数学教育」の発行、数学教育シンポジウムの開催などです。これらの活動および会員相互の交流を通して、会員の数学教員としての教材開発力や授業力の発展に寄与していると考えています。

対外的な活動では、日本数学教育学会主催の全国大会や春季・秋季研究大会さらに、テクノロジーによる数学教育研究会(T³-研究会)において、多くの会員が研究発表を実施し、理数研の活動をアピールしています。

平成 30 年 8 月には、日本数学教育学会主催の第 100 回全国算数・数学教育研究(東京)大会が東京理科大学を中心に開催されることになりました。

理数研はこの大会を共催し、準備委員長や大会役員に多くの理数研会員が就任し大会の成功のために邁進しています。

全国の数学の教師、OB の皆様には、理科大大会にぜひご参加くださるようお願いいたします。現役の皆様にはぜひ研究発表をし、また運営ボランティア等として大会を盛り上げていただければ幸いです。

教育会の皆様にも理科大大会をご支援くださるようお願いいたします。

(編集後記) 第 49 号をお届けいたします。

お忙しい中、支部総会報告等でご協力いただいた支部長さん、原稿や記事をお寄せいただいた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。

さて、26 年度からスタートした**グローバルサイエンスキャンパス(GSC)**は 4 年目を迎えます。平成 29 年 3 月 12 日の修了式で 3 回目のプログラムが終了しました。平成 29 年度にあと 1 回行われます。平成 29 年度は基礎コース 4 期生と、基礎コース 3 期生から選抜された発展コース 3 期生とがプログラムを受講します。このことについて、プログラムコーディネータの春山修身先生にレポートしていただきました。大学に通える範囲に限られますが、近県の教育会、同窓教員の皆様に大変お世話になって実施できています。

さらに 28 年度から**宇宙教育プログラム**が始まりました。受講生は高校生 12 名大学生 18 名で、最先端の宇宙科学技術による本物体験ができます。このことについて、担当の理数教育推進室の森知春さんにレポートしていただきました。高校生 12 名の中には、関西圏から 4 名の生徒が参加しているそうです。

こうした事業を推進するためには、意欲ある高校生を推薦し継続的に支援していく高校の協力が不可欠です。

一方で「**坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト(高校生部門)**」は 8 回目が終わりました。こちらますます応募が増えて内容も充実しています。全国からの応募状況とその推移が分かる資料を巻末に掲載しました。

平成 29 年度第 9 回目は、平成 29 年 10 月 29 日(日)野田キャンパスで発表会・表彰式が行われます。当日は、**理工学部 50 周年を記念するホームカミングデー**が盛大に行われます。また、「**第 10 回数学・授業の達人大賞授賞式・模擬授業**」も行われます。この種のコンテストは他にありませんので、全国の教育関係者から注目されています。

(小久保正己)

事務局だより

1 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は PORTA 神楽坂 7 階の理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

〒162-0825

東京都新宿区神楽坂 2 - 6 - 1

PORTA 神楽坂 7 階 理窓会事務室内

なお、お急ぎの場合には、2 の支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

2 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 高橋 伯也 (編集担当)

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

[メール takahaku@rs.tus.ac.jp](mailto:takahaku@rs.tus.ac.jp)

3 会費の納入について

理窓教育会は会員の皆様の会費 (年額千円) で運営されています。会費の納入は郵便振替をご利用ください。

口座番号 00160-9-715349

加入者名 [東京理科大学理窓教育会]

平成28年度 教員採用試験合格者数													平成29年3月15日現在		
校種	公 立								私 立				公私合計		
	小学校	中学校・高等学校				特別支援			校種数	合計	中学校・高等学校				合計
数学		理科	情報	不明	数学	理科	不明	数学			理科	情報	不明		
北海道		1							1						1
茨城		2							2	2	2			4	6
群馬		3							3						3
埼玉	1	7	7						15	1				1	16
千葉		13	4						17	2				2	19
東京都	8	37	22	1					68	7	6			13	81
神奈川		9	3						12	3	5			8	20
横浜市		2							2						2
川崎市		1							1						1
長野		1							1						1
静岡											1			1	1
大阪府		1							1	1				1	2
宮崎			1						1						1
海外															
合計	9	77	37	1					124	16	14			30	154

校種	公 立								私 立				公私合計	
	小学校	中学校・高等学校				特別支援			合計	中学校・高等学校				合計
数学		理科	情報	不明	数学	理科	不明	数学		理科	情報	不明		
平成28年度	9	77	37	1				124	16	14			30	154
平成27年度	11	95	45		5	1		158	29	18	3		50	208
平成26年度	5	134	46		10	6	2	203	34	17	2		53	256
平成25年度	2	89	60		2	3	3	158	38	18			56	214
平成24年度	1	112	26					139	30	13			43	182
平成23年度	2	89	18			1		110	63	6			69	179
平成22年度		48	21		1	1		71	39	9			48	119
平成21年度		49	15		1	3		68	23	4		1	28	96
平成20年度	4	49	15			3		71	14	4			18	89

表中の数字は、教諭および常勤講師の数 (非常勤講師は除く)

第 8 回坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト 概要報告

1 論文応募状況

- (1) 応募状況 (論文提出期日 平成 28 年 8 月 31 日)
 168 点 (応募 170 点 辞退 2 点)
- (2) 都道府県別応募数 26 都道府県
 北海道 1 青森 1 岩手 30 宮城 5 秋田 1 茨城 7
 群馬 9 埼玉 12 千葉 19 東京 8 神奈川 10 新潟 2
 長野 3 岐阜 2 愛知 1 京都 2 大阪 1 兵庫 7 和歌山 1
 島根 8 広島 5 香川 8 愛媛 9 福岡 3 鹿児島 4 沖縄 9
- (3) 分野別応募数
 物理 43 化学 46 生物 47 地学 8 数学・情報 21 その他 3
- (4) 参加生徒 503 名 (5) 指導担当教諭 120 名 (6) 参加高校 63 校

2 応募状況の推移

		応募論文数	参加生徒数	指導教諭数	参加高校数	都道府県数
1 回	H21 年	23	84	19	17	12
2 回	H22 年	47	148	38	28	13
3 回	H23 年	57	193	44	32	17
4 回	H24 年	61	264	46	35	17
5 回	H25 年	78	276	60	45	23
6 回	H26 年	110	407	81	46	25
7 回	H27 年	153	469	102	60	26
8 回	H28 年	168	503	120	63	26

3 審査結果

優秀賞 (5 点) 優良入賞 (16 点) 入賞 (52 点) 佳作 (47 点)
 参加賞 (48 点) 特別賞(学校賞) 2 校

4 発表会・表彰式

平成 28 年 10 月 30 日 (日) 10:00~13:30 (第 11 回ホームカミングデー開催日)

参加状況 参加校数 25 校 参加者数 133 名

最優秀賞	島根県立益田高等学校 福満 和 「ローダミンB を使ってつくった赤い繭・青い繭、クワの葉を使わない人工飼料で繭に有効に色をつける方法」
優 秀 賞	茨城県立水戸第二高等学校 数理科学同好会 「閉鎖系 Belousov-Zhabotinsky 反応の長時間挙動」
	愛媛県立松山南高等学校 物理部・放送部 「コンクリート壁から出る天然放射性核種の崩壊」
	広島大学附属高等学校 高 翔一朗 「三角関数に成立する恒等式についての考察」
	埼玉県立浦和第一女子高等学校 深津 美薫 「ゾウリムシの培養温度に対する反応」
学 校 賞	市川学園 市川高等学校
	神奈川県立西湘高等学校